

盛岡地区かわまちづくり北上川ワークショップの記録

1. グループ発表

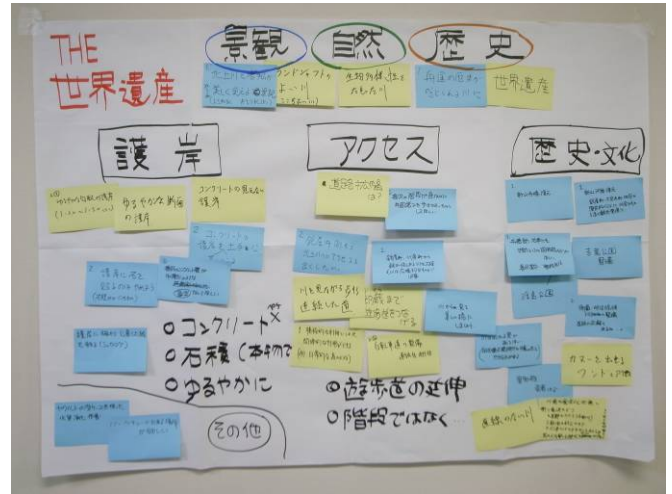
1) 第1回ワークショップ

●屋形船



チーム屋形船でございます。よろしくお願ひします。3分ということですが、いろんなアイデアが出まして、細かいことは言いませんが、大きくざっと説明します。まず、中津川と北上川は基本的に違うのではないかと。中津川は古い建物ではなく近代的な建物とのマッチングを考えよう。北上川は鉾屋町の古い町並みとのマッチングをして、基本的に別な川だというイメージで進めていこうじゃないかというような話が大きな所です。次に、三川が合流するあたりに湧き水があるはずだと、そういう所からホテルとか自然を活かしていこう。そして、子供達が遊べるエリアに作っていきたいということで、それから観光、色々な歴史を顧みて観光を考えていくと屋形船になると言うようなことで、チーム屋形船としてこのようなまとめをさせて頂きました。

●THE 世界遺産



チーム名は「THE 世界遺産」です。最初私が言ったように、やはりどうあるべきかという未来像をイメージして、未来像に近づいていくこと、それが良いかわまちづくりにつながるという風に考えてまして、階段の積み重ねや継ぎ足しでは良いビジョンは出来ないと思いますので、まず合意形成が出来たのは世界遺産です。何も世界遺産に絶対なるぞとかではなくて、世界に誇れる盛岡のまちづくりをします。そこの考えからいくとまず歴史を反映した景観ですね。歴史景観、これを大事にしよう。盛岡というのは川の流れを変えて作った町ですから、これはとても大切なことです。それによって作られた街並みや景観があるので、それを復元していこうという風に考えました。そのためには、大きく景観、自然、歴史という風に分けたんですが、やはりコンクリートが見えない護岸の方が歴史をイメージしやすいので、北上川と岩手山が美しく見える。昔、江戸時代はそうだった、ここに暮らした人達はそういうことを、歴史を感じながら豊かさを感じながら暮らしたんじゃないか。そのイメージで行く。あとランドシャフトのよい川です。ランドシャフトはドイツ語ですが、要は心地よい景観ですね。その中には生物多様性なども入ってきます。実は生物多様性を保つということは、自然の営みが活かされるわけですから、私達日本人が心地よいと思うのはその部分が非常に大きいんです。あと舟運の歴史が感じられる川ということで、具体的に言うと護岸は緩やかな傾斜にしましょう、コンクリートは見えないようにしましょう。もちろん治水をしっかりと守った上での心地よい景観です。あとアクセス、歩けるような所ですね。石を使えばいいかというやっぱり石を使っても何か見えて気持ち悪い作りもあるねということで、決して石にこだわるわけではない。コンクリートを使っても自然を感じさせるようなものであればよいと思います。それから、アクセスとしては道路をやっぱり拡張したらいんじゃないかということです。というのは道路から川が見える、歩きながら川が見えるという町がいいねと。今どうしても堤防を高くしているの、川とまちを繋いで見るということとはできないんですね。下の方にある道を上に上げる。そのためにはテラスでもいいので拡張するような道にしたらいんじゃないかと。あと何よりも歴史文化の繁栄ということで、新山舟橋を復元しよう。それを目標にしてどういうことが出来るかということを進めていく所がビジョンに向かって進んでいくということですから、そのためにはワンドも復元して、カヌーで遊べるような所や屋形船に芸者さんが乗って一緒に楽しめる、観光客が楽しめるようなことがあってもいいのではないかと考えました。

●南部舟橋



なんと言っても新山舟橋が、南部の舟橋ということで全国でも三大舟橋ということですので、私共のチームは南部の舟橋ということにさせていただきました。それでどんな川かということ、やはり悠久なる北上川と言うことでですね。200km、石巻まであるわけですので、やはり盛岡の代表的な川ではないのかということになっておりまして、それで新幹線で来ましてもまず一番目に付く景観といいましょうか、一番眺望が良いとか、見晴らしの良い場所になるわけですから、何とかあのへんを綺麗に整理して欲しいというのが皆様方の意見でございました。舟運ということで、明治橋の所まで石巻からの起点であり出発点であり、終点で有りという場所であります。そういう意味からして、何とかその舟橋ということを手くしながら再現できないものかなという風に思っております。それから明治橋から南大橋の間が、あそこにはお蔵もあるわけですけど、中州の整備、ちょっとあそこは非常に樹木が繁茂しておりますし、それを撤去するなり綺麗にしていこうではないかというようなことであります。それから、明治橋の上流にはずっと中津川の方から遊歩道がございますけれども、明治橋まででありまして、その下の方にはないと言うので、中州も配慮しながら散策路をずっと南大橋まで整備して、そしてあそこのお蔵の方に登れるような階段を是非作って頂きたいなと。それで護岸もやはり石を貼りつけるなりいろんなことをしながら、綺麗に整備をして欲しいというようなことでございます。あと、右岸の所に盛南コンクリさんの建物がありますが、あそこを何とか撤去してあのエリアは子供も親御さんも遊べるような、昔は浮島公園があって、河童神さんもあったり、そして私共が小さい時はターザンごっこをしたり、素晴らしい思い出があるわけですけど、あのへんを綺麗に整備して子供も親も遊べるような、楽しめるような場所にして頂きたいなということでございます。

2) 第2回ワークショップ

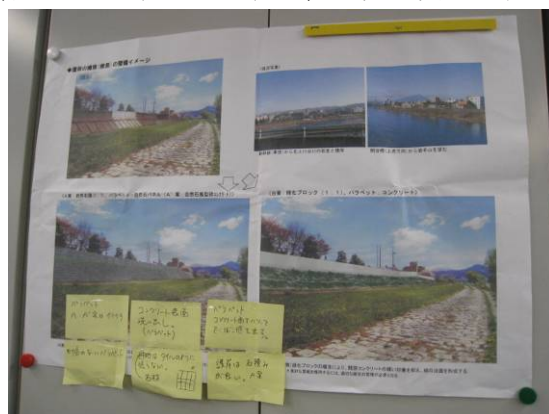
【グループ1】

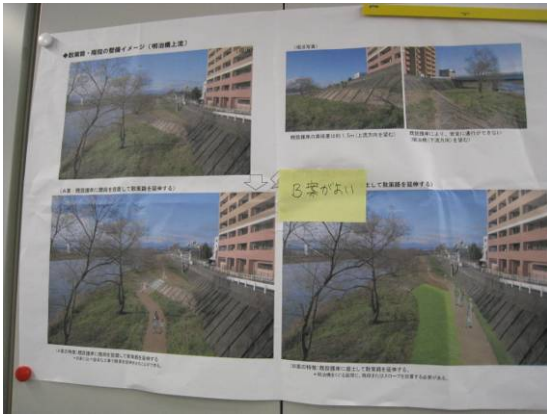


護岸の補修・修景は、自然石を積むというスタイルであれば、それがいいと思います。ただ気をつけてもらいたいのは、目地がまっすぐ直線で通っちゃうような長さと同じ過ちになりますので、目地が直線で通らない形で配慮してもらいたいということです。それからパラペットの上の部分ですが、これもやはり中津川の反省にたつて、厚みを増したり高さが高くなったりというのは避けて欲しい。石を貼ったりするくらいであれば、コンクリートのままでいいだろうと。ただそれでもやっぱり味気ない形になってしまいますので、コンクリートに多少の処理をするのでしょうか、叩いてデコボコ感を出すのか、あるいはちょっと色を落ち着いた色にするかですね、そういう形で下の石積みとマッチさせるような、そういう形にしてはどうかと、あと余談で土塀とか、板塀とかそんなものでもましたけど、いずれこの鉦屋町で進んでいるまちづくり、それと出来るだけ合うような風にしてもらいたいという発言がありました。

散策路は、B案の散策路の延長はスロープですーと下に摺り付く形がいいんじゃないのという意見でした。それから階段は提案のあったようなスタイル、あの形でいいでしょうということです。

それから降り口が今4つあるのかな、そのうちの3つは取りやめたいみたいな意向が国の方にあったようですが、やはり町と川をつなげたいということで、全部辞めてしまうのはどうかなということです。できれば、地下道方式という提案がありましたけれども、できるできないは別としても、鉦屋町側から川に行きやすい形が欲しいねと。今は道路をもの凄い車がたくさん通って、しかもこのへんは川側に歩道がないということがあって、鉦屋町、ユニバースのあたりから川に行くというのは非常に行きづらい、そういう状況になりますので、ユニバースのあたりから道路の下をくぐって川にでれたりしたら最高だねという提案がありました。洪水の時はそこはふさがると、出来るかどうか分かりませんが、願望としてそういう点がありました。それがもし無理な場合は、2箇所階段を設けてもらえればということでした。





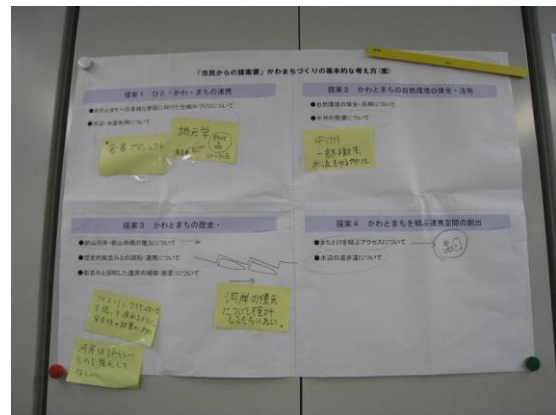
その他、中州は雪捨て場として利用できないかと。この間鉾屋町の雪、排雪作業をみんなでやって大変苦労したわけですが、これは中津川の人々の希望もあるんですが、下の橋の所の雪捨て場がですね、あまり評判がよろしくない、下の橋中学の子供達にあそこに雪を捨てないでねと言う声が非常に強いものですから。ただそうはいっても町に近い所に雪捨て場が欲しいなと言った時に、中津川下の橋の代わりになるような雪捨て場って探すといったら北上川しかない。もし取れたらなと思います。ただ、車両が降りれるような場所を確保することが課題ではあるだろうということです。

他に桜並木が欲しいねという意見がありました。仙北町側の対岸には桜がありますが、出来れば鉾屋町側もあって両岸に桜が並ぶといいねという意見も出ております。

それから舟っこ流しという一大イベントがありますけれども、スペースがなかなか狭いということもあって、もうちょっとそこを何とか確保する方法がないだろうかということです。

中州ですか、多少発達しすぎている所もあるので、ちょっと削ってもいいんじゃないかという意見もありました。

市民から提案書の考え方ですけれども、まず人との関わりですが、今鉾屋町で地元の人達、あるいは街並み塾、それから若者プロジェクト、色々な人達が一生懸命まちづくりをやっていますので、その人達の活躍の場が更に川にも波及してくればいいまちづくりにつながってくるんじゃないかということです。ちなみに先週、先々週、地元の人達が地元学という取り組みをしていますので、そこで出された提案も是非取り込んで欲しい。それから新山河岸ですが、是非これは昔の面影を何とか蘇らせられないだろうかということです。なんかこういうギザギザのような形になっていたんじゃないかという話がありまして、そこにこう船が縦に並ぶようなそういう格好があったんじゃないかという話がありまして、それに近いイメージの復元ができないかということです。更に、船橋があったわけですが、さすがにこれはそのまま再現するのはもちろん厳しいということもあって、イベント的に例えばワイヤーを張って、そのワイヤーをぽっと建てると。そんなイメージもできないかということです。

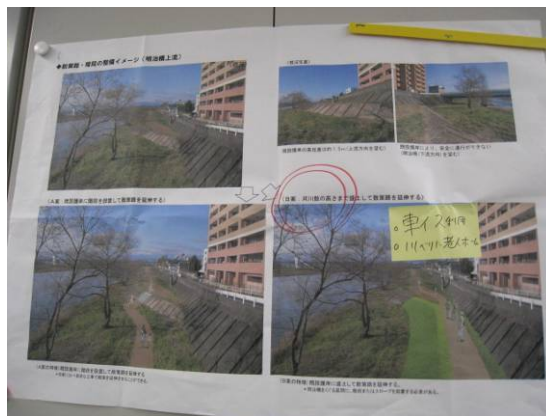
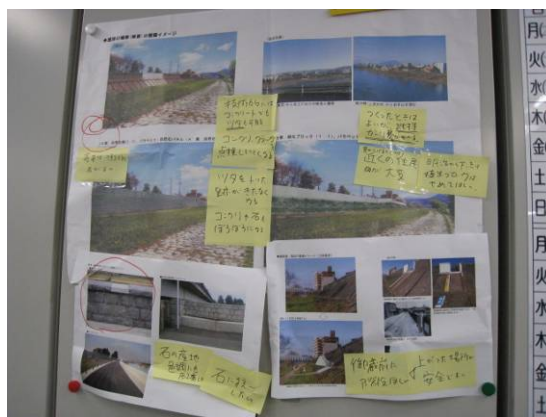


【グループ2】



初めに、ここのグループでイントロみたいな形で話し合ったのは、地元として一番関心があるのが実は堤防道路のことなんです。それを話し合いまして、ユニバースという大手のスーパーが出来たことによって、ちょっと道路がこの頃渋滞になっていて、地元から見たら使いにくい道路になってしまっています。盛岡市に相談するとあそこは堤防道路だから国の管轄ですと、全然受け付けてもらえないので、そこを何とかありませんかという風なちょっと変な所から導入しました。具体的には堤防の方の話に戻りますけれども、やはりA案がいいのではないかということでした。ただ地元としては現在でもあそこに雑草が堤防を色々上がって行って、住民の人達が困っている部分があるので、コンクリートでもそういう状態なんだから草の生える形の緑化ブロックになったらもっとそういう雑草関係のことで管理が大変でしょうから、是非、石の形にして頂きたいということになりました。あとは専門の方々に色々護岸の役割を果たすための石と言うことでは、お任せするしかないと思いますので、あまり詳しくこの部分はお話できませんけれども、A案でお願いしたいと思います。

それから、散策路ですけれども、明治橋のところについて、一旦階段で下がるようにするかというのは、やはりこのごろ高齢者があそこの散策路を利用しているので、車椅子も通れるような形にして、盛土でお願いしたいと思います。下流の階段については、階段にするとスロープがないので車椅子の方はあがれないんですけど、ここはもともとがっちり堤防で管理されてきた所で、あまり地元の人達も近づいていない部分でもあります。車椅子の方はちょっと、戻って明治橋のスロープから上がって頂くということで階段形式でもいいんじゃないかというご提案に賛成させていただきます。



また、環境学習のことで、中州を子供達の学習の場にしたらどうかということは結構時間を掛けて話し合いました。地元の者から見ていると中州がどんどん増大しているっていうんでしょうか、年々大きくなっていますので、あそこは何ということではなくて、広がり続けているので、できれば木を切って頂いて、元の流れに戻して頂きたいという意見の方が多かったような感じがしました。それから北上川は明治橋付近は右岸と左岸でもの凄く水の流れが違うんです。明治橋の上流の仙北町側はなだらかな、本当に舟っこを流すのも、みなさん、あまり腰まで浸からなくても流せる位浅瀬が続いていますし、杉土手側は本当にあつという間に深くなるんですね。それで子供達の遊び場にしても、右岸と左岸で認識を分けるというんでしょうか、仙北町側でそういうなだらかな所で遊んだり、雫石川とか中津川っていうのが安全な遊び場になって、むしろその深い所には遊びとしては近づかないと言うのも一つの方法ではないかという風な意見が出ました。

あとは歴史を感じる川ということでは、船橋のことと、あとは舟っこ流しということが船橋、あるいは新山河岸それから舟っこ流しというのが歴史を感じる北上川ということになるんですけど、舟っこ流しは何100年も続いている伝統行事ですので、今後是非続けて頂きたい。船橋と新山河岸は昔こうだったということで、現在は全然面影が残っていないので、昔のイメージがわかる程度でもいいんじゃないか。でもそれいいんじゃないかと一言で言うんですけど、多分それはもの凄く難しい専門的な技術が必要ではないかと思しますので、ちょっと素人ではどうにも提案ができる話ではないので、是非そういうことに造詣が深い方のご意見を伺って、そしてお金のかかることだと思いますので、北上川を管理する最大の良い方法を専門家に教えて頂きたいです。





第1回かわまちづくり北上川ワークショップ開催！

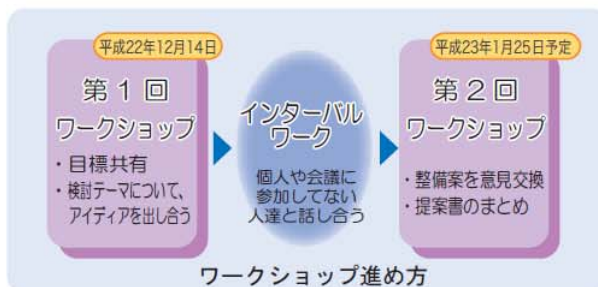
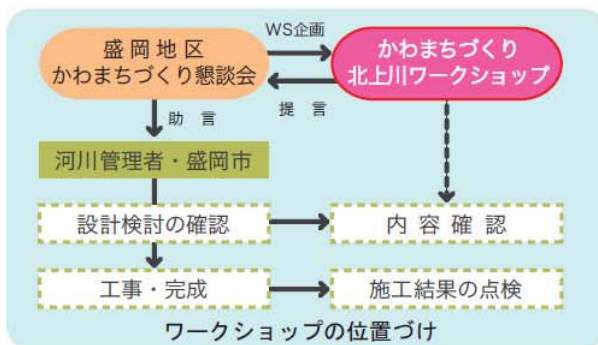
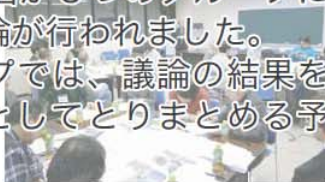
盛岡市、国土交通省岩手河川国道事務所は、かわまちづくり中津川ワークショップに引き続き、「盛岡地区かわまちづくり懇談会」においてとりまとめられた『盛岡地区かわまちづくり計画(案)』の実現に向け、北上川の三川合流地点から明治橋下流を対象に、当計画のリーディングプランである以下のテーマについて、広く意見・アイデアを募るかわまちづくり北上川ワークショップを12月14日(火)に開催しました。

- 街並みと調和した護岸の維持・補修(修景)について
- まちと川とを結ぶアクセス整備について

ワークショップでは、主催者側よりかわまちづくりの概要や、盛岡市で実施している街並み環境整備事業、現状の堤防(護岸)補修の必要性と景観に配慮した修景事例などの説明がありました。

ワークショップに参加した市民22名、行政関係者8名の計30名が3つのグループに分かれて、熱心に議論が行われました。

次回ワークショップでは、議論の結果を市民からの提案(書)としてとりまとめる予定です。



検討範囲
検討区間(三川合流地点～明治橋下流)

凡例
都市再生圏計画区域
中心市街地活性化計画区域
街並み環境整備推進区域
お城を中心としたまちづくり計画の区域

鉈屋町の街並み
北上川でのイベント「奔っこ流し」

検討区間の地域資源

①街並みと調和した護岸の維持・補修(修景)

②まちと川とを結ぶアクセス整備

検討区間の概要と議論のテーマ 主な議論のテーマ



北上川への思いがたくさんつまったワークショップでした。

◎ 主な意見（グループ発表より）

参加者のご協力により、多くのアイデアが出されました。主な意見を紹介します。

- ・北上川の川づくりは中津川と違い、近代的な建物ではなく鉾屋町の古い町並みとのマッチングを考えていく必要がある。
- ・三川合流地点を活かしてホテルのいる自然や子供の遊び場をつくってけるとよい。
- ・屋形舟を浮かべて観光に活かせられると面白い。
- ・車イスで降りられるスロープをつけて人が近づける川にしたい。
- ・川沿いの木陰で休める川だとよい。護岸と調和する柳の木などがよい。



- ・世界に誇れる川づくりを目標像にしたい。
- ・歴史を感じる景観を大切にしたい。そのためにはコンクリートの護岸は見えない方がよい。石にこだわらないが、コンクリートでも自然を感じさせるものであればよい。緩やかな護岸にしたい。
- ・道路から川が見えるようになるとよい。
- ・新山舟橋の復元を目指して、できることから進めていきたい。
- ・ワンドの復元やカヌー遊び、芸者さんが乗った屋形舟などを楽しめるとよい。



- ・北上川は盛岡を代表する悠久の川である。
- ・新幹線からの眺望される場所はきれいにしたい。
- ・舟橋を上手く再現できないか。
- ・明治橋から南大橋の間の中洲に繁茂する樹木をきれいにしたい。
- ・遊歩道を南大橋まで延長して、蔵に上られる階段をつくってほしい。
- ・護岸は石張りにするなどして、きれいにしたい。



振り返りシートの意見より

- ・色々な人の意見が聞けてよかった。
- ・みんなのイメージが同じでよかった。
- ・北上川の魅力が増してきた。何が必要かイメージがわいてきた。

- ・歴史について理解が深まった。
- ・素直に意見発表ができてよかった。
- ・時間が足りなかった。
- ・メンバーは固定せずシャッフルすると面白い。

問い合わせ

国土交通省 東北地方整備局 岩手河川国道事務所 工務第一課

〒020-0066 盛岡市上田4丁目2-2

電話：019-624-3198（工務第一課直通）

Fax：019-652-7450

Eメール：iwate@thr.mlit.go.jp

<http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/>

かわまちづくり北上川ワークショップ

北上川かわまちづくり通信



第2回かわまちづくり北上川ワークショップ開催！

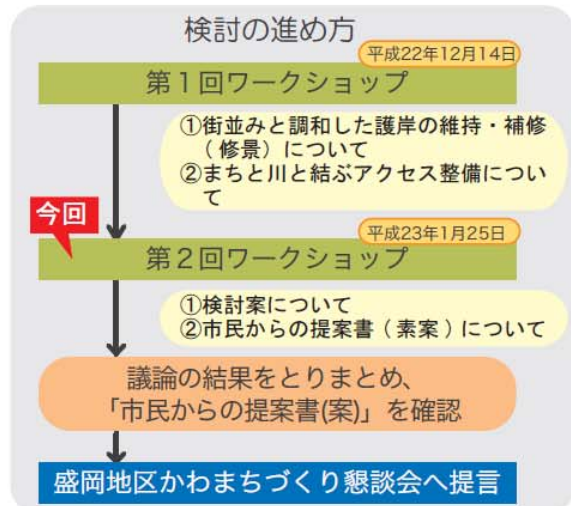
第2回ワークショップは、1月25日(火)開催されました。第2回ワークショップでは、第1回での議論を踏まえ、具体的なアイデアを話し合いました。

市民から参加者11名、行政関係者約6名が2つのグループに分かれ、北上川ワークショップの成果となる「市民からの提案書(素案)」について議論されました。

今後のスケジュール

第2回ワークショップの議論を踏まえ、事務局で「市民からの提案書(案)」を作成します。作成した提案書(案)をワークショップメンバーに確認していただいた上で、盛岡地区かわまちづくり懇談会に提言する予定です。

懇談会及び盛岡市、岩手河川国道事務所は、その提言を踏まえ、整備可能な内容について、ワークショップ参加者に報告しながら整備を進めていきます。



市民からの提案書(素案)について

これまでのワークショップを基に事務局が整理した提案書(素案)について、四つの基本的な考え方を中心に議論しました。

市民からの提案書(案)【基本的な考え方】(骨子)

提案1: ひと・かわ・まちの連携

- かわとまちへの多様な参画に向けた仕組みづくりについて
- 水辺・水面利用について

提案3: かわとまちの歴史・景観資源の保全・活用

- 新山河岸・新山舟橋の復元について
- 歴史的街並みとの調和・連携について
- 街並みと調和した護岸の補修(修景)について

提案2: かわとまちの自然環境の保全・活用

- 自然環境の保全・活用について
- 中州の整備について

提案4: かわとまちを結ぶ連携空間の創出

- まちと川を結ぶアクセスについて
- 水辺の遊歩道について

[主な意見]

- ・鉾屋町でまちづくりについて検討しているので、かわづくりと連携してもらいたい。
- ・新山河岸は、昔の面影のイメージを復元することを目指してもらいたい。

- ・新山船橋は例えばイベント的にワイヤーを張ることも考えられる。
- ・中州は発達しすぎているので、元の流れに戻してもらいたい。
- ・中州は雪捨て場として利用できないか。



検討案について

①護岸の維持・補修、②アクセス整備について、事務局が用意した比較案をもとに議論し、以下のとおり決まりました。

①街並みと調和した護岸の維持・補修（修景）について

- 既設護岸の勾配 1:1.0 より緩やかな勾配としないこととする
- 既設護岸コンクリートの人工的な印象を軽減した補修・修景とする
- 自然石を用いる場合は不自然とならない修景とする



北上川の護岸



<自然石積案>

【主な意見】

- ・護岸は自然石を積む案がいいと思う。ただし、直線的な目地など不自然にならないよう配慮してほしい。
- ・パラペットは、コンクリートとした場合は、表面の処理や色などに配慮して石積みにマッチさせてほしい。
- ・堤防天端から川が見られるよう、パラペットの高さ、厚みを検討してほしい。

②まちと川を結ぶアクセス整備について

- 既設散策路を活用し、適切な箇所に階段を設置し水辺の回遊性を図る
- 街なみ環境整備事業と連携し、街なみとのアクセス性の向上を図る



明治橋上流



<盛土して散策路を延伸する案>

【主な意見】

- ・明治橋上流の散策路は盛土により整備する案がいいと思う。



明治橋下流（御蔵前）



<階段（1:2）を整備する案>

【主な意見】

- ・階段を設置する案でいいと思う。（御蔵付近）
- ・鉾屋町側から川に安全にアクセスできるような地下方式は考えられないか。（ユニバース付近）
- ・3つの陸間統合に伴い、もう1つ階段を設置してもらいたい。（ユニバース付近）

問
い
合
せ

国土交通省 東北地方整備局 岩手河川国道事務所 工務第一課

〒020-0066 盛岡市上田4丁目2-2

電話：019-624-3198（工務第一課直通） Fax：019-652-7450 Eメール：iwate@thr.mlit.go.jp

<http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/>